

環境省 中部環境パートナーシップオフィス運営業務
第6期(2021～2023年度)業務概要報告書

令和5年(2023年)12月
一般社団法人 環境創造研究センター

環境省 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 第6期(2021～2023年度)業務概要報告書

目次

1. 第6期EPO中部の「目標」と「方針」
2. 第6期業務における主な取組
 - 【方針1-①】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の個別対応
 - 【方針1-②】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の汎用化
 - 【方針2】独自の地域SDGs評価機能の構築
 - 【方針3- i 】EPO機能の強化：金融機関や経済団体等との関係構築
 - 【方針3- ii 】EPO機能の強化：協働コーディネーターとの関係強化
 - 【方針3- iii 】EPO機能の強化：取り残されがちな中小企業・自治体等への支援その他の取組
3. 第6期業務の総括
 - ① 第6期の取組の成果と評価
 - ② 今後に向けて

1. 第6期EPO中部の目標と方針

第6期運営着手にあたり設定した3カ年の「目標」と「方針」

■目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

■方針

1. 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援にあたり、細やかな個別対応と、他の取組支援等への汎用化を行います。
 - ① 【個別対応】地域／取組が必要とする支援を細やかに汲み上げると共に、これまでの協働取組への支援の経験やツールを活用するなどして、事例ごとに個別に対応した支援を展開します。
 - ② 【汎用化】EPO中部が展開してきた支援内容の整理を行い、地域循環共生圏づくりやSDGs推進のためのプログラム化とその実装・実践に取り組みます。
2. SDGs推進・活用の取組において今後重要となる「目標設定」と「評価」について、第5期の作成ツール（活動見える化プログラム、SDGsチェックリスト等）や、外部団体によるSDGs指標ツール等を活用するなどして、独自の地域SDGs評価（SDGsの取組の現状等を評価する）機能の構築に取り組みます。
3. 上の1、2の支援や多様なステークホルダーの巻き込みにおいて、第5期の運営会議等での指摘事項や抽出された課題等に留意し、次のEPO機能の強化に取り組みます。
 - i. 資金調達に関わる主体（特に金融機関や経済団体等）との関係構築
 - ii. 地域実践者であるEPO中部・協働コーディネーターとの関係強化と新たなネットワークづくり
 - iii. 取り残されがちと指摘される中小の事業者・自治体等をターゲット設定した支援のあり方検討

2. 第6期業務における主な取組

※以下、「地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業」を「PF事業」と表記。
※集計結果や数値、取組状況等はいずれも2023年11月末時点で整理。

2. 第6期における主な取組

【方針1-①】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の個別対応

地域循環共生圏フォーラム 2021年度福井県越前市開催

越前の森里川海で取り組む地域循環共生圏フォーラム

里山里海資源の収益化と 地域循環の創出を目指して

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

後援：福井県、越前市、しらやま振興会、坂口地区うらの町づくり振興会、越前市エコビレッジ交流センター
協力：合同会社ローカルSDクリエイション

日時：2021年11月20日(土)13:30~16:30

会場：越前市エコビレッジ交流センター 大ホール

福井県越前市湯谷町25-25-2 (Web) <http://www.ecovillage.jp>
(Googleマップ) <https://goo.gl/maps/wQ2ar13Lfy87W0fuf9>

参加申込方法 参加無料／要・事前申込

申込フォーム <https://forms.gle/hF8PHrHIBvzsyAT9> ⇒



WEB epo-chubu.jp

@EPOchubu

Eメール info@epo-chubu.jp

①氏名(フリガナ)、②連絡先(メールアドレスか電話番号)、③ご所属先 を記載して、
「件名：1120フォーラム」で11月17日(木)までに送信願います。

【お願い】新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力願います。本フォーラムの参加者数は会場定員の半分以上とし、参加者は原則、越前市とその周辺市町の在住者・通勤者、及び活動団体の方のみとさせていただきます。また、事前の参加申込と、ご来場時のマスク着用が必須となります。開催日当日、発熱のある方や体調の悪い方は来場をお控えください(その場合の不参加のご連絡は不要です)。

プログラム

ごあいさつ「地域循環共生圏について」

環境省中部地方環境事務所

基調講演「フナを食べながら三方五湖の自然再生を考える」

講師：福井県里山里海湖研究所 研究員 樋口潤一 氏

取組紹介① エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま 橋本弥登志 氏

取組紹介② さかのくち活性化協議会 野村みゆき 氏

取組紹介③ 合同会社ローカルSDクリエイション 三田村佳政 氏

ディスカッション「森里川海ワイズユースから越前エリアの地域循環共生圏を考えてみる!」

進行：中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

- 福井県越前市等で活動している協働コーディネーターと連携し、同市内でフォーラムを2021年11月に開催。
- 市内白山地区で環境保全活動、エコツアー等を展開する活動者や農業従事者等23名が参加し、地域の未来像や今後必要な取組等についてディスカッションするワークショップを実施した。

【開催結果】

- 開催に協力した協働コーディネーターは、次年度(2022年度)の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業に応募し、採択された。
- その後PF事業には2カ年度(2022-2023年度)にかけて採択され、広域エリア(丹南地区)でエコツアー等を実施する地域主体／プログラムをコーディネートするハブ組織構築を目指し、活動を展開している。



地域循環共生圏フォーラム 2022年度長野県諏訪エリア開催

開催日時:
2022年11月23日(水・祝)13:00~17:00

会場:
諏訪市文化センター・第2集会所
(長野県諏訪市海岸通り5-12-18)
Googleマップ: <https://goo.gl/maps/XCkwwLLoeXVtIP6>

オンライン視聴:
第1部のみYouTube配信あり
※会場参加、オンライン視聴ともに
要・事前申込となっています。

参加申込フォーム

<https://forms.gle/dbWJjQhPGTSwBj7>

WEB epo-chubu.jp @EPOchubu

<https://www.epo-chubu.jp>



Eメールで参加申込の場合

宛先: info@epo-chubu.jp

①氏名(ふりがな)、②連絡先(メールアドレスと電話番号)、③ご所属先、④参加方法(会場参加、または、オンライン視聴のどちらか)を記載して、「件名:1123フォーラム」で11月16日(水)までに送信願います。



地域循環共生圏フォーラム in SUWA 諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョン

第1部 13:00~開会/オンライン配信あり

【あいさつ】環境省中部地方環境事務所環境対策課

【講演】「森里海」の旅ーいのちと水の巡り

講師: 田中 克 氏 (京都大学名誉教授)

【講演】未来の子供たちにすてきなバトンを手渡したい!ー沖永良部島からー

講師: 石田 秀輝 氏 (地球村研究室代表、東北大学名誉教授、SuMPO理事長)

【地域の取組発表①】一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会 代表理事 元木 誠 氏

【地域の取組発表②】株式会社八十二銀行 企画部サステナビリティ統括室長 中林 武 氏

【地域の取組発表③】東急リゾーツ&ステイ株式会社 資産企画統括部 徳田 圭太 氏

【第1部のまとめ】長野県環境部次長 真関 隆 氏

第2部 15:05~開始/会場参加のみ

【ワークショップ】諏訪広域エリアのもり・さと・かわ・うみビジョンを考える

ファシリテーター: 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

【講師】田中 克 氏 (京都大学名誉教授)

石田 秀輝 氏 (地球村研究室代表、東北大学名誉教授、SuMPO理事長)

【まとめ/今後に向けて】

元木 誠 氏 (一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会代表理事)

主催: 環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

共催: 一般社団法人諏訪広域脱炭素イノベーション協会

後援: 長野県、茅野市、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、富士見町、原村、八十二銀行、諏訪信用金庫、諏訪商工会議所

【お願い】新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力願います。会場参加は原則、長野県内の在住者・通勤者、及び活動団体の方のみとさせていただきます。また、事前の参加申込と、ご来場時のマスク着用が必須となります。開催当日、発熱のある方や体調の悪い方は来場をお控えください。その場合の不参加のご連絡は不要です。

- 2022年11月に、長野県諏訪エリアの活動団体と共催し、地域循環共生圏フォーラムinSUWAを開催。
- 自治体・企業等の多様な参加者が58名あり、ワークショップでは諏訪地域の「なりたい地域の未来像づくり」についてディスカッションを企画・実施した。

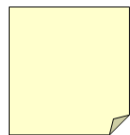
【開催結果】

- 当地域では過去に多様な主体が集まって未来像づくりワーク等を行ったことがなく、初めて実施。
- 開催前はワークショップに対して否定的な意見もあったが、開催後は実施して良かったとの感想ばかりをいただいた。



地域循環共生圏づくりPF構築事業支援：ななおSDGsスイッチ

①期待すること



②懸念や課題



コンソーシアム構成員の“考え”を相互共有

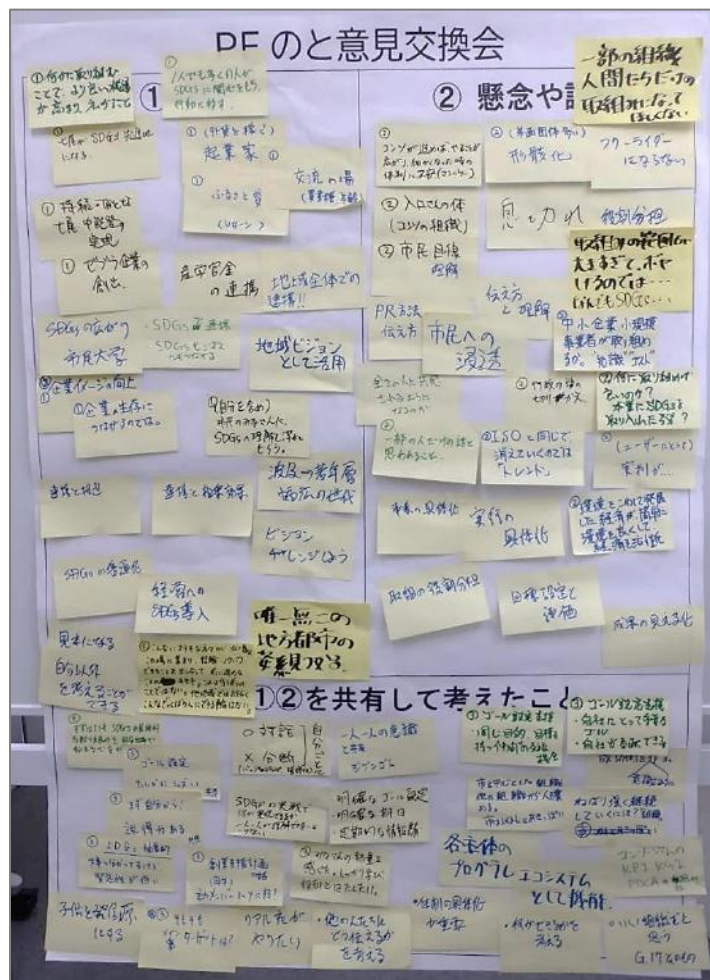
▼▼▼
コンソ事務局が

今後の展開・あり方などを考える **ヒント**に

③上の①②を共有して考えたこと



構成員や事務局
それぞれの“抱負”の明示化
“想い”の相互共有
新しい気付き



- 2021年9月にPF事業採択団体・ななおSDGsスイッチ(当時:のと共栄信用金庫)の関係者が集まる「意見交換会」を開催。
- EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援し、PF組織の設立、及びその後の継続に向けた期待・課題等をディスカッション。

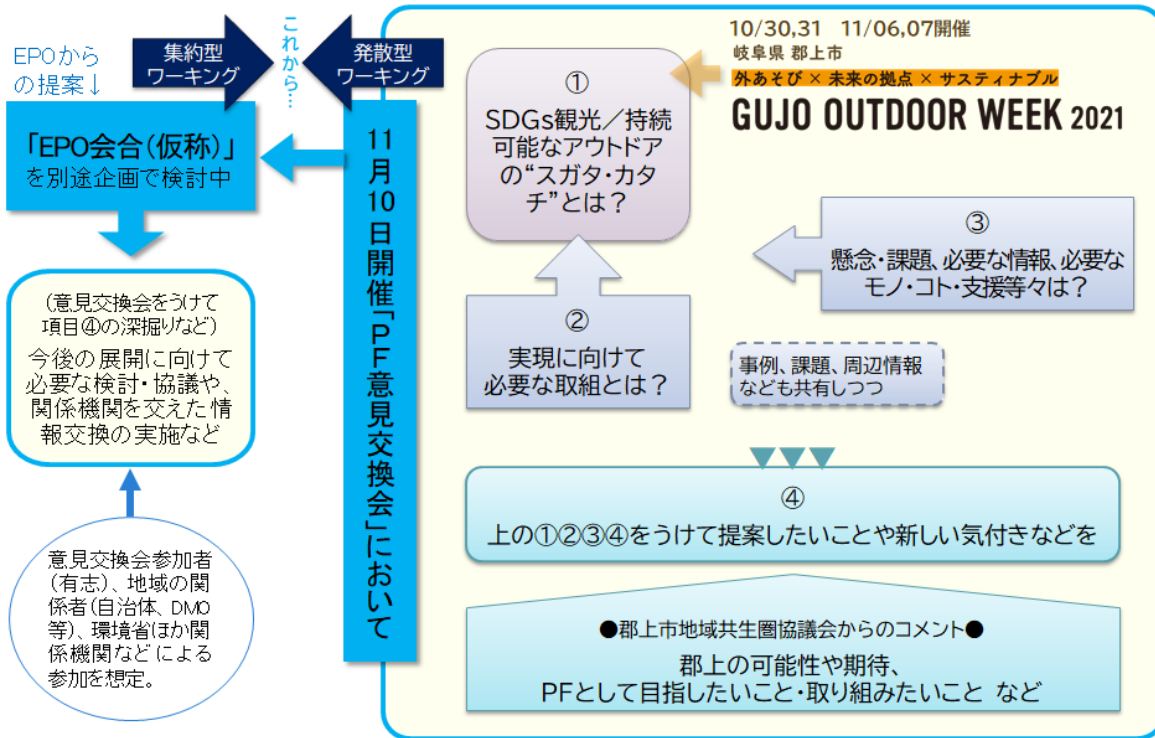
【実施結果】

- コンソーシアム関係者が抱いている懸念・課題を明確化し、関係者間で共有することができた。
- この会合で提示された意見等を参考にして、事務局はななおSDGsスイッチ設立と、その後のプロジェクト展開の計画づくりを行い、協力・連携体制のさらなる強化を図った。

地域循環共生圏づくりPF構築事業支援：郡上市地域共生圏協議会

郡上の観光／アウトドアの

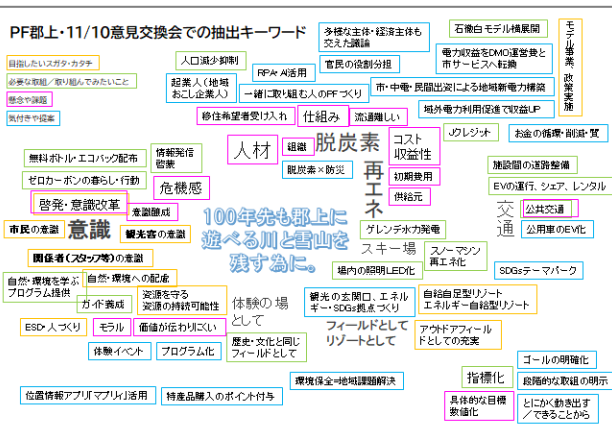
【発散型】意見交換会と【集約型】会合で「これから」をまずは共有する



- 2021年11月にPF事業採択団体：郡上市地域共生圏協議会の関係者による「意見交換会」を実施し、EPO中部が企画・運営（ファシリテーション）を支援。
- アウトドア事業者が目指している観光のあり方を明確化し、次ステップで取り組むべきローカルSDGs事業についての議論を行った。

【実施結果】

- 関係者それぞれが多様な地域課題を抱きつつ、その解決策としてのローカルSDGs事業のアイデアが多く抽出された。
- この意見交換会后、市内アウトドア事業者のコンセプト「100年先も郡上に遊べる川と雪山を残すために」をもとに、新たにJ-クレジットの活用展開の可能性を考える勉強会も実施した。



2. 第6期における主な取組

【方針1-②】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の**汎用化**

主催イベントで独自ツール「SDGsチェックリスト」を実践活用

環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)主催
ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー@中部

SDGs17ゴールの紐づけの先へ あなた・地域・社会の変容に向けて

開催日時:2022年12月15日(木)13:30~16:30
zoom開催/参加費無料

参加申込フォーム

<https://forms.gle/bBgk3k4zAD8XTP8dA>
開催日の前日、申込登録したメールへzoomの
参加URLをお送りします。



▶メールで参加申込の場合

宛先: info@epo-chubu.jp
「①氏名(ふりがな)」「②連絡先(メールアドレス
か電話番号)」「③ご所属先」を記載のうえ、
「件名:1215セミナー」で12月9日までに送信願
います。

ONLINE SEMINAR & WORKSHOP

- はじめに
ご挨拶/環境省からのお知らせ
環境省中部地方環境事務所環境対策課
EPO中部とは/本セミナーの趣旨
EPO中部
- 基礎講座
ソーシャル・プロジェクトを成功に導く発想と技法
～SDGsの本質に対応し、「国連・ESDの10年」の経験を活かす
東京都市大学大学院環境情報学専攻 教授 佐藤 真久 氏
- 総論提供
SDGsの我がごと化とSDGsの指標について考えてみる
中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) ESD責任者 原 理史
- ワークショップ
「SDGsチェックリスト」を活用したローカルSDGsの我がごと化ワーキング

※「SDGsチェックリスト」について

- 「SDGsチェックリスト」は、事業や活動をSDGs17ゴールに関連づけて気付きを得られる、チェック
リスト型のシートで、中部地方ESD活動支援センター(EPO中部)が独自に作成したツールです。
- 本セミナー参加の際にはぜひ「SDGsチェックリスト」をお手元にご準備ください。
- なお、「SDGsチェックリスト」は、参加申込フォーム等に記載のURLから入手(DL)できます。
- EPO中部ウェブサイトでも公開しており、右のQRコードがURLから参照いただけます。



<https://epo.chubu.metrocenter.jp/2020/11/10/2174541/>

SDGsチェックリスト(簡易版)

SDGsチェックリスト(地域社会分析) テーマ:実生活の食を考えた食生活

SDGs	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	

サブテーマを記入する

自分の考えでチェックしてみる
どのように関連しているか考える

貢献しているSDGs目標には○を、足を引っ張っているSDGs目標には△をつける

- 独自ツール「SDGsチェックリスト」についても、ワークショップ等で使用しやすい新バージョンを2021年度に作成し、WEBサイト等で公開。

- この新バージョン「SDGsチェックリスト」を活用し、2022年12月開催のオンラインセミナーでSDGs我がごと化ワーキングを実施した。

【実施結果】

- SDGsチェックリストについては、公開後、毎年数件ではあるが、「使用したい」「活用方法は？」などの問合せをいただいている。
- セミナー参加者からも、これからSDGsに取り組む人向けに継続して開催してほしい、SDGsとの関係性文章化が参考になったなどの感想をいただいた。
- その後、参加した自治体職員からチェックリストを活用していると連絡があり、記入済みシートを事例として提供いただいた。

EPOが実施した地域循環共生圏WSプログラムをウェブサイトで公開

EPO中部のワークショップ・プログラム

ご利用ください！

EPO中部は、地域循環共生圏づくり（ローカルSDGs実践）に取り組む地域／団体を支援するため、様々なワークショップやディスカッションなどワークショップを企画・実施しています。
ここではEPO中部がオリジナルで立案した各種ワークショップのプログラムや用いたツールや資料を紹介しています。
ここに公開しているツールや資料は、自由にダウンロードしてご利用ください。
また、EPOでは、研修や勉強会などのプログラムづくりの相談や、講師、ファシリテーター役の募集なども承っています。

公開プログラム

01

SDGs共感ストーリーづくりワークショップ

詳細はこちら

02

「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション

詳細はこちら

使用するツール①：ワーキング用シート

・A3サイズで作成したシートです。
・フォーマットは、1グループごとに、A3サイズで出力したものを2枚でワーキングを行いました。

ワーキング用シートのPDF (53.8KB)

ご利用の方へ「通め方資料」PDFに掲載

グループ名を記入します。

ワーキング③
それぞれが個人が記入した付箋を貼り付けながらそれぞれの考えを発表し、共有していただきます。

ワーキング④
グループ内で「なりたい地域の未来像（キャッチフレーズ）」を話し合い、紙面を自由に記入していただきます。

ワーキング用シート

「なりたい地域の未来像（キャッチフレーズ）」を話し合い、紙面を自由に記入していただきます。

【付箋①】
付箋への記入はできるだけキーワードや重要語など記入することをおすすめします。（そして付箋は口頭で説明する。）

【付箋②】
ワーキング用シートや付箋に記入する際は、カラーペンやサインペン等の使用をおすすめします。（ボールペンでは見にくい場合があります。）

使用するツール②：個人記入シート

・A4サイズで作成したシートです。
・フォーマットは、1人1枚配布して、それぞれ個人が記入しました。
・このシートへ記入した後は、記入した内容のキーワードを付箋にも記入していただき、グループ内で一人ひとりの発表を行いました。
※なお、調整の都合により、各項目ごとに（地域課題／地域資源等の項目ごとに）、付箋へのキーワード記入は3枚までと限定しました。

個人記入シートのPDF (4.6KB)

個人記入シート … 自分の中の想いを整理してください。そして伝えてください。

誰かエリアの地域課題（3つまで）	付箋に記入	付箋に記入	付箋に記入
誰かエリアの地域資源（3つまで）	付箋に記入	付箋に記入	付箋に記入
課題を解決する取組／課題を資源に転換する取組／資源を更に活用する取組			
上の取組で得られる地域の魅力・価値とは？			

- 主催する地域循環共生圏をテーマにしたWS（ワークショップ）のプログラムやツール・シート等をどの地域や団体等でも使用できるように一般化する整理を行い、ウェブサイトの「お役立ちコーナー」で公開した。

【実施結果】

- 公開後、温暖化防止活動推進員、環境カウンセラー等から活用方法や使用許可等についての問合せがあった。
- ここで公開したプログラムは、その後の主催イベントでも活用している。

「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション用のプロセス概説、使用可能なツール・シートを公開

「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション

・ここで紹介するワークショップは、2022年11月に開催した地域循環共生圏をテーマにしたワークショップ（ディスカッション）をベースに作成したプログラムです。
・フォーマットは特定の地域エリアを対象に作成しました。
・参加者は、主にそのエリアに在住する企業・金融機関の方、自治体の職員、組合・NPO等の活動家などであり、一般公募で参加していただく予定です。
・EPO中部の連携・ファシリテーションにより約60分間のワーキングを実施しました。

目的

エリアにおける「なりたい地域の未来像」について、4人ずつの6グループ（3組）にて、参加者の皆さんでディスカッションをしていただきました。

ワーキングの概要

通め方資料 (4.5KB) 一式のPDF (2.8KB)

ワーキングの概要

① 自己紹介(参加した理由・背景など)

② 個人シートへ記入する(自分の中の想いの整理)
➢ 記入した内容のキーワードを付箋に書く

③ 地域要素(地域課題・地域資源、地域に必要な取組等)を考える・提示する
➢ 【グループの中で共有】グループ内で、上の②で付箋に書いたことを一人ずつ発表しながら、発表した付箋をワーキング用シートへ貼る
➢ 【全体で共有】各グループの代表が、自分のグループでどんな内容が共有されたかを発表する。

④ 「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション
➢ 【グループの中で共有】上の③で共有したことをもとに、自分達の「なりたい地域の未来像」と「その実現に必要な取組」について話し合い、ワーキング用シートへ記入する
➢ 【全体で共有】各グループごとに、自分達のグループの「なりたい地域の未来像」と、「その実現に必要な取組」とは何か、話し合ったことを発表する

13

その他) EPO中部ウェブサイトの充実化 例) お役立ちツールコーナー

<https://www.epo-chubu.jp/tool>

活動見える化チャート事例
の蓄積(追加公開)

EPO中部が支援した取組、連携・協力した取組などを「活動見える化プログラム」にして、地域側にフィードバック。同時に、ウェブサイトにも掲載・公開。

お役立ちツール



EPO中部の
ワークショッププログラム

地域循環共生圏づくり(ローカルSDGs実践)に取り組む地域/団体などを対象に、EPO中部が実施したワーキングのプログラムを紹介・公開しています。



活動見える化プログラム

EPO中部では、協働取組の支援のため「活動見える化プログラム」を構築し、地域活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化する分析手法として活用しています。



SDGsチェックリスト

SDGsチェックリストは事業や活動を17ゴールと関連づける『気付き』のためのツールで、中部地方ESD活動支援センター(EPO中部)のオリジナル・ツールです。

主催セミナーのほか、
ワークショップ、ブース
出展時等で活用

ツールを活用したWSの実施方法(プログラム)等も公開



EPO中部・
協働コーディネーターのリスト

協働取組の促進には、協働コーディネーターの存在が不可欠とされています。EPO中部は地域の人材である協働コーディネーターの活用促進にも取り組んでいます。



「SDGs指標物語」の活用・公開
活動見える化チャートと「SDGs
指標物語」の連動等による活用
方法について検討予定

中部エリアで開催されている出展可能な環境関連イベントのリストを作成しました。活動・取組をPRする場・機会をさがす際などにご活用ください。



EPO中部関連業務
報告書アーカイブ

平成17年度(2005年度)以降にEPO中部の関連業務において作成された報告書を公開しています。

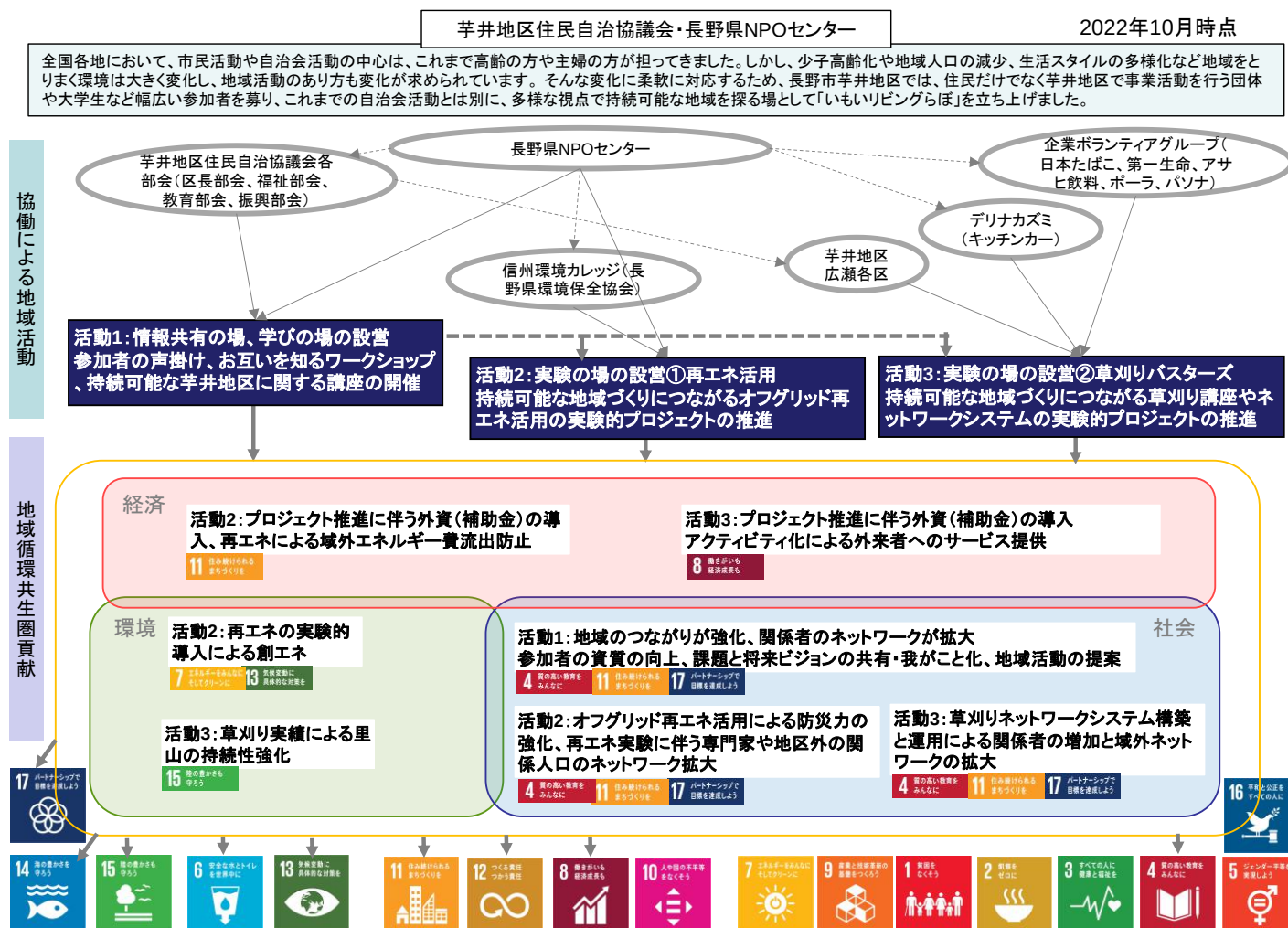
その他) 前期・第5期構築の活動見える化プログラム事例も継続して作成・公開

長野県長野市芋井地区 「芋井リビングラボ」

●取組分析の共有

●活動指標の選定

2月開催の芋井地区勉強会にて活用



活動1 情報共有の場、学びの場の設営



情報共有や学びの場の参加人数(人)

活動2 実験の場の設営①再エネ活用



課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数(件)

活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ



再エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再エネ量(kWh)

実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)

2. 第6期における主な取組

【方針2】独自の地域SDGs評価機能の構築

SDGs指標物語を構築：試行2事例のチャートを作成

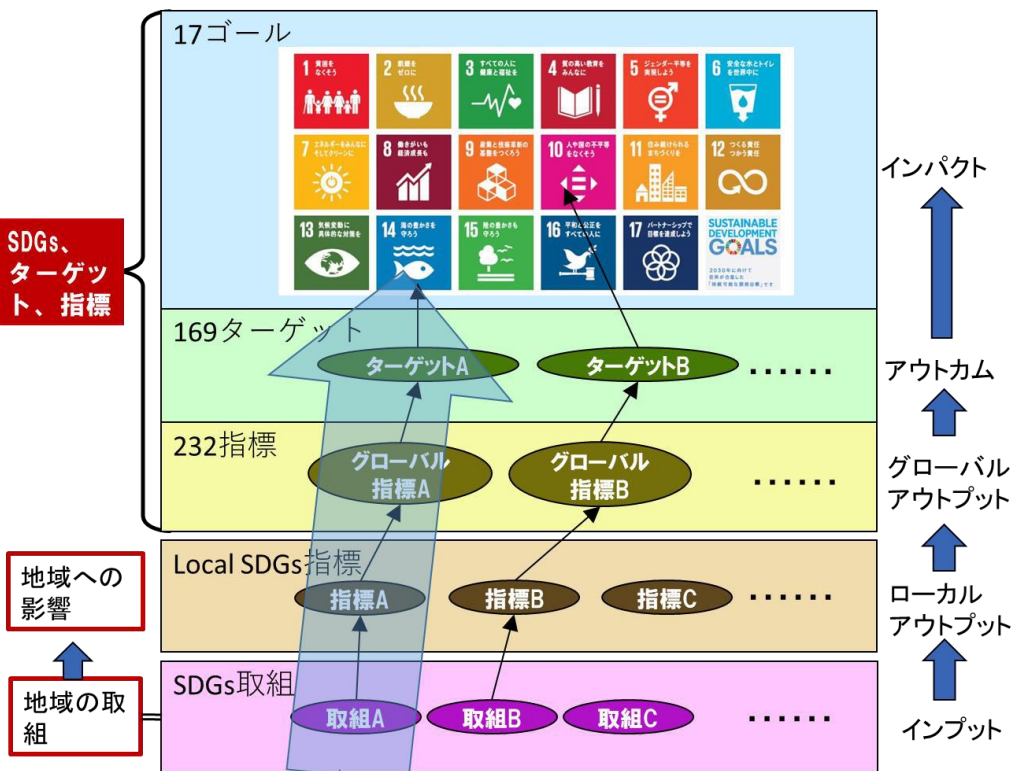
地域の取組からボトムアップ的に指標とSDGsとの関連を考える

「地域の取組」と「指標A」のSDGs指標物語(例)

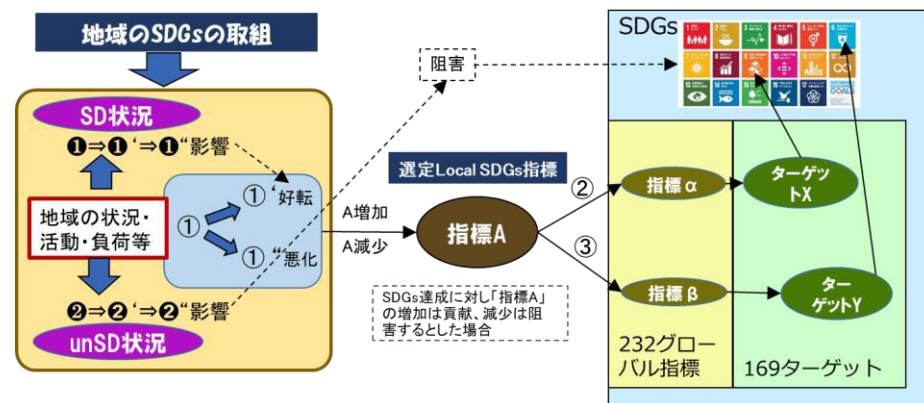
指標AはゴールNo.〇、〇、〇の達成に寄与するLocal SDGs指標として選定した。Aは①の貢献度を表す。

指標Aが増加するとグローバル指標 α と指標 β に②、③から影響しターゲットXとターゲットYの達成に貢献する。

指標Aの増加のための地域のSDGs取組は、①という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、①'の影響により①"につながる。一方②'の持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、②'の影響により②"につながり、ゴールNo.〇について阻害が起こる可能性があるため、そうならない取組が必要となる。



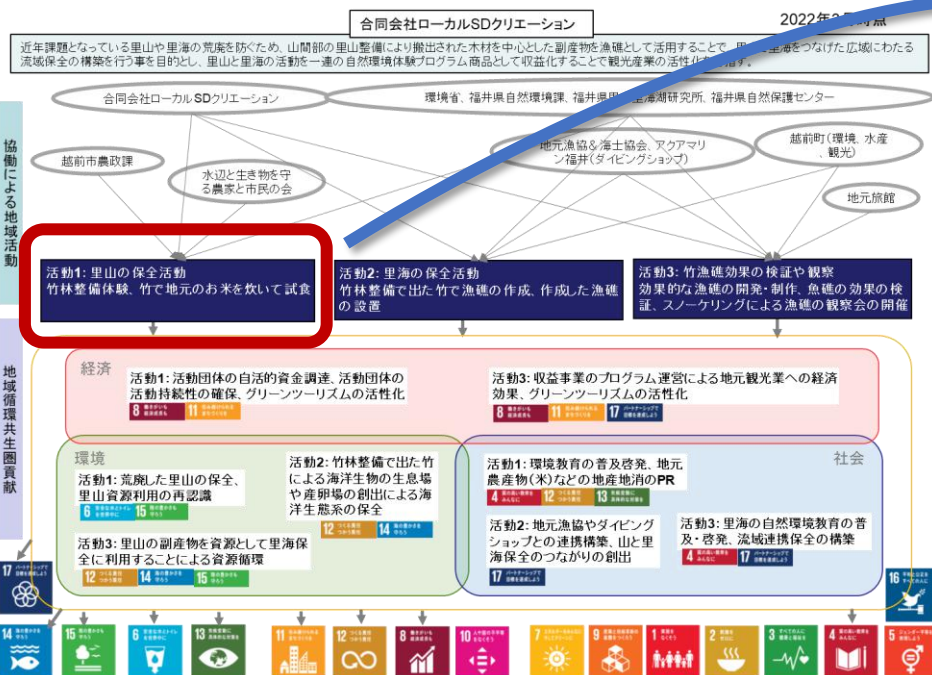
取組から「指標」を選定し、SDGsへのルートを説明する「SDGs指標物語」



活動見える化プログラムに接続するSDGs指標物語

● 活動見える化PとSDGs指標物語*: 活動の分析内容を考慮して指標を選定

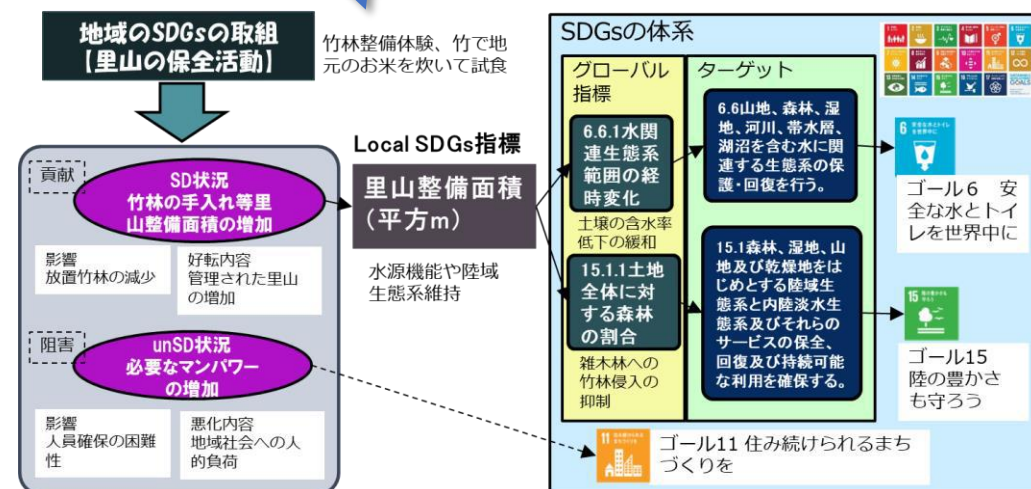
「活動見える化プログラム」で活動内容を可視化



活動ごとに「指標」を選定

活動	活動1	活動2	活動3
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	竹漁礁効果検証や観察会など体験プログラム化
選定指標	里山整備面積(平方m)	漁礁の設置数(箇所)	観察会等収益事業プログラム運用売上(円)

選定した「指標」ごとにSDGsとの関わりを示す指標物語を作成



*引用 原理史,平川翼,川村真也,杉田暁,伊藤恭彦 (2023):地域活動推進のためのSDGs指標物語, 環境共生, 39巻1号, p.66-76
(中部大学問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究IDEAS202014助成)

主催セミナーで「SDGs指標物語」等独自ツールを紹介

自治体職員向けローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー

ローカルSDGsの指標と

達成度評価

～活用可能なサイト/ツールの紹介と
トライアル（試してみよう！）～

日時：11月6日(月)13:30～16:30

会場：ウインクあいち 12階・会議室 1201

(名古屋市中村区名駅4丁目4-38/名古屋駅から徒歩5分/ <https://www.wink-aichi.jp/access>)

対象 自治体職員 定員 50人（参加無料）

参加方法 参加申込フォーム：下記URLから
<https://forms.gle/vsLFMusGZ7noPsF79>
・右のQRコードからも申込可能です。
・ウェブサイト※「EPO中部」で検索
からも申込できます。



第1部

- ・ごあいさつ、情報提供
—— 環境省中部地方環境事務所環境対策課
- ・EPO中部の紹介と本日の趣旨について
EPO中部
- ・[基調講演] ローカルSDGsの策定とその達成に向けた
アクションを誘発するオンラインプラットフォーム
自分の地域で
・ローカルSDGsプラットフォーム <https://local-sdgs.jp>
・プラットフォームクローバー <https://platform-clover.net>
—— 法政大学デザイン工学部教授 川久保 俊 氏
- ・[基調提供] 自治体SDGsモニタリングツールと達成度評価(2015-2022)
自分の地域で
・自治体SDGsモニタリング達成度ダッシュボード
https://chubu-sdgs-platform.jp/information_dissemination/
—— 国際連合地域開発センター・研究員 浦上 奈々 氏
- ・[事例を見る化] EPO中部による「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」
—— EPO中部 原 理史

第2部

- ・共有ディスカッション(SDGsの活用・実践における課題感、今回紹介
サイト/ツールの活用アイデア)、川久保先生による講評 など

自分の地域で
試してみよう！
ご参加の際、ノートPCやタブレットなどをご持参されますと、講師の解説を聞きながら、実際にサイト/ツールをお試しいただけます。

主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）

[事例を見る化]

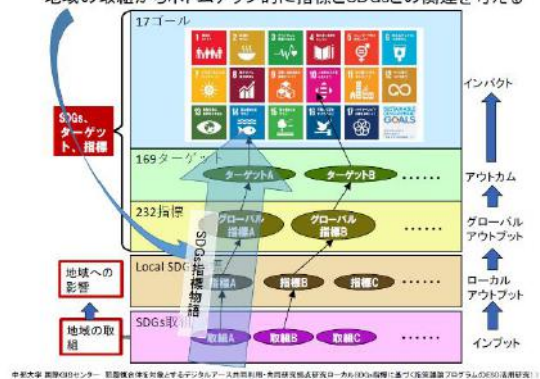
EPO中部による「SDGs指標物語」と
「活動見える化プログラム」

2023年11月6日



環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター
中部大学中部高等学術研究所
原 理史(はら まさし)

地域の取組からボトムアップ的に指標とSDGsとの関連を考える



「SDGs指標物語」の意義

SDGsの取組における評価や現状把握に際し、「SDGs指標物語」は「指標」から見た取組のSDGsにおける意義を説明する有効な「枠組み」となり得る。

地域づくりにおいて評価の指標の内容や意義を共有する際の説明と理解に有用。

「SDGs指標物語」の課題

SDGs指標物語の作成における課題
・作成に手間がかかる
・SDGsの知識を元にした関連性を考察するため、ある程度の熟練が必要
SDGs指標物語の活用における課題
・複雑に内容についての理解しやすい説明方法の確立

「SDGs指標物語」の展望

○「SDGs」とは限らない様々な目標についての「指標物語」の活用
○既存の指標についての持続可能性の観点から問い直しへの活用
○活動の振り返りを持ち寄り、相互評価を行う場である「評価活動」への活用

- 2023年11月開催のSDGs指標と達成度をテーマにした自治体職員向けセミナーで、事例の見える化ツールとして「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」を紹介した。

【実施結果】

- 基調講演講師や参加者から、地域単位のSDGs指標・達成度に対し、プロジェクト単位の指標の捉え方の重要性を認識することができた、ほかの見える化チャートも見てみたいなどの声が寄せられた。



2. 第6期における主な取組

【方針3-i】EPO機能の強化：金融機関や経済団体等との関係構築

地域循環共生圏PS基盤強化会合：2022年度三重県尾鷲市開催

- 2023年1月に、三重県尾鷲市で、令和4年度おわせSEA モデル説明交流会「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて」を開催。
- PF事業2019-2020採択団体・おわせSEAモデル協議会の関連プロジェクトと企業・金融機関等との意見交換を実施。
- 企業・金融機関等63社、参加者数128名が参加した。

【実施結果】

- 想定を上回る企業・金融機関が参加し、国・県の関係部署全てからの出席があり、プロジェクトへの注目度をはかることができた。
- その後、プロジェクトの変更等もあり、具体的なマッチング報告はないが、新しい地域産業創出の第一歩につながるはずとの期待の声を尾鷲市側からいただいた。



プログラム 1/2

1. ごあいさつ

- 尾鷲市長 加藤 千速
- 環境省地域政策課
地域循環共生圏推進室長 佐々木 真二郎

2. おわせSEAプロジェクトについて (15分)

- 尾鷲市政策調整課 調整監 濱田 一多朗

3. 協力機関からの応援メッセージ (10分)

- 財務省 東海財務局
津財務事務所長 斎藤 誉 氏
- 国土交通省 中部地方整備局
四日市港湾事務所長 日置 幸司 氏

04

おわせSEAモデル説明交流会

プログラム 2/2

4. プロジェクト・セッション (各プロジェクト5分)

- セッションの進め方 説明：EPO中部
- ① 尾鷲音色の森キャンプ場(仮)について
■ ㈱インフィニティ52代表取締役 浜野 五十二 氏
- ② 親子3世代が憩う総合公園整備について
■ 尾鷲市生涯学習課長 平山 始 氏
- ③ 環境にやさしい陸上養殖について
■ 尾鷲商工会議所プロジェクト室長 山本 浩之 氏
- ④ 尾鷲市における製材工場立地の可能性について
■ 速水林業 代表 速水 亨 氏

- 質疑応答 (60分) 進行：EPO中部

5. フリートークタイム (プロジェクト担当者との情報交換)

6. 閉会 (16:30予定)

05

おわせSEAモデル説明交流会

地域循環共生圏PS基盤強化会合：2022年度福井県丹南エリア開催

プログラム案

- 白山さんちランチ会合（会費制／自由参加） 12:00～13:00
中部環境パートナーシップ（EPO中部）による会合の趣旨説明
- 13:30～情報交換会 ※時間配分…プログラム1～5:各15分(計75分)+プログラム6:60分+休憩15分=計150分
 1. はじめに／「地域循環共生圏」(PF事業)についての概説
環境省中部地方環境事務所環境対策課
 2. PF事業による取組紹介①:産官学金コンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」による創業支援等の取組(仮)
ななおSDGsスイッチ 入口 翔 氏【確定】
(七尾商工会議所SDGsプロジェクト推進室室長 兼 のと共栄信用金庫ふるさと創生部次長)
 3. PF事業による取組紹介②:丹南における里山整備副産物を利用した海洋資源保全(仮)
合同会社ローカルSDクリエーション代表 三田村 佳政 氏【確定】
 4. 地域ビジネス創出を目指した取組紹介:日本政策金融公庫のソーシャルビジネス支援(仮)
日本政策金融公庫
 5. 地域の取組紹介:地域資源を活用した農家レストランやエコツアー(仮)
農家レストラン・白山さんち 森 和恵 氏(※別の方になる可能性あり)
(休憩/ティータイム)
- 6. 意見交換・情報交換など

2

- 2023年2月に、PF丹南を含む、福井県丹南地区の活動団体と経済団体・金融機関の交流・情報交換会「里山里海ワイズユース×地域ビジネス情報交換会」を、地域活動団体が経営する農家レストラン「白山さんち」を会場にして開催。
- 地域活動者や、地域ビジネスの創業支援を展開するPF七尾、ソーシャルビジネス支援を展開している日本政策金融公庫武生支店、武生商工会議所などが参加し、ローカルSDGsビジネスについてのディスカッションを実施した。

【実施結果】

- 取組発表とディスカッションにより、環境活動をビジネスとして展開するにあたっての課題感を共有することができた。
- また、出席いただいた金融機関・商工会議所から、経済的分野からの指摘や、これまで知らなかった制度・事例の存在など、今までにはなかった助言を得ることができた。
- 出席した地域団体側からも、なぜ地域ビジネスとしての展開が重要なのが初めて理解できたとのコメントをいただいた。



自然資本活用会合：2023年度信州の森・里山フォーラム（開催予定）

EPO中部
環境省中部地方環境事務所
長野県中部森林管理センター

信州の森・里山フォーラム

地域資源としての
森林・里山の価値向上について考える

2023年12月19日(火) 13:30~16:00

プログラム(予定) ※変更になることがあります。

■ 情報提供
本フォーラムの趣旨について 環境省 中部地方環境事務所
信州における森林経営、森林サービスの現状と今後の展開への期待について(仮) 林野庁 中部森林管理局
森林の利活用と交流人口の増加を目指して 長野県林務部 信州の木活用課

■ 森づくり・里山保全等の取組紹介
東急リゾートタウン蓼科の「もりぐらし」 東急リゾート&ステイ株式会社 資産企画統括部 徳田 圭太 氏
地域商社・機能会社をとおした森林価値を高める多角的な事業 株式会社トビムシ 飯泉 浩二 氏
森林・里山の課題の解決と新たな価値創出 フォレストデザイン 代表 余頃 友康 氏
循環型社会・脱炭素社会の実現に向けた、「木」にかかわる新たなチャレンジ 中部電力株式会社 経営戦略本部 地域インフラ事業推進室 川口 雅哉 氏

■ ディスカッション
森林・里山の利活用と価値の向上について 進行：環境省 中部地方環境事務所

参加方法

参加方法は次の①②③のいずれかとなります。参加申込フォームの中で選択してください。

① 会場参加 長野市生涯学習センター第1・第2学習室(トイゴウエスト3階)
長野市大字鶴賀留部町1271番地3 / JR長野駅豊光駅より徒歩約10分
Googleマップ: <https://maps.app.goo.gl/hyD8u2l1N69Y64oH9>

② ZOOM参加 質問等をされたい方は、「① 会場参加」もしくは「② ZOOM参加」をぜひお選びください。

③ YouTube視聴

申込方法

● 参加申込フォームからお申し込みください。

参加申込フォーム: <https://forms.gle/DadoXMIlaZALc30eU9>

● EPO中部ウェブサイトからも申込できます。

EPO 中部

主 催：環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
共 催：林野庁中部森林管理局

- 2023年12月に信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」を開催予定である。
- 森・里山づくりから地域づくりを考えるフォーラムとして、林業者ではないが森づくりに関わっている事業者等が登壇し、取組発表やディスカッションを行う予定である。
- 登壇者との事前打合せ等では、それぞれの森・里山の価値向上を地域の付加価値創出につなげる話題提供等があり、非常に示唆に富んだフォーラムになるものと期待をしている。

2. 第6期における主な取組

【方針3 - ii】 EPO機能の強化：協働コーディネーターとの関係強化

協働コーディネーターとの連携実践活動：長野県長野市



信州ローカルSDGs 勉強会
災害に強い地域づくり

ジモトをいつまでも暮らしやすい地域にするために！

【日時】 11月5日(土) 13:00～15:00
【会場】 長野市立芋井小学校体育館
(長野市桜600)

参加費無料
先着30名様
(オンライン参加あり)

災害に強い地域をつくるため、楽しく取り組む防災・減災活動と太陽光やバイオマスなど、身近な再生エネルギーを平時から暮らしに取り入れるライフスタイルについて、参加者みんなで考えます。

【事例発表】

- ◎ アクティビティから防災を学ぶ
 - 被災経験からの防災キャンプ ～ 豊野地区住民自治協議会
 - こどもたち自身が身を守るように～真島だんごむしカフェ
- ◎ オフグリッドを生活に取り入れる
 - 里山での小さな実践～ 芋井地区住民自治協議会

グループでのディスカッションもあり今日からできるアクションを考えます

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス
(特非)長野県NPOセンター
協力：長野市立芋井小学校
(特非)長野県NPOセンター

問い合わせ先 TEL 026-269-0015 MAIL info@npo-nagano.org

参加申込フォーム

QRコード

- 2022年11月に長野県長野市で、協働コーディネーター・山室氏が所属する長野県NPOセンターとの共催で、信州ローカルSDGs勉強会「災害に強い地域づくり」を開催。
- ローカルSDGsと災害・防災・減災の地域づくりをテーマにした勉強会を実施し、35名の会場参加があった。

【開催結果】

- 参加者からは、座学のみでなく、実践的なアクティビティも取り入れたプログラムで学びが多かったとの声が寄せられた。
- 災害対策をテーマにしつつ、地域による備えが防災のみにとどまらず、再エネの導入・活用にもつながることの学びが得られ、ローカルSDGsの同時解決、統合的な取組を実感する機会となっていた。



協働コーディネーター情報交換会 2023年9月実施

実施内容の詳細

	プログラム	時間	協働コーディネーターの活動紹介等
13:30～16:00 (150分)			
1	改めて自己紹介と近況報告	40分 (5分×6人)	● 【全員】自己紹介・近況報告 ※ 作成いただいたバウボ資料「自己紹介と近況報告」はEPOウェブサイトの「協働コーディネーター」ページにも掲載させていただきます。
2	《話題提供1》 中部地方環境事務所から : 情報提供・共有等	15分	● 中部地方環境事務所環境対策課長補佐 縄野さんより
3	《話題提供2》 協働コーディネーターから : EPO連携事業の紹介	20分 (5分×3人)	● 【三田村さん】地域循環共生圏づくりPF構築事業の活動紹介 ● 【山室さん】協働促進業務(信州地域SDGs講座等)の紹介 ⇒代理: EPO説明 ● 【堺さん】ESD学び合いプロジェクトの紹介
4	《話題提供3》EPO中部から : 見える化P、SDGs指標物語等紹介	15分	● EPO中部 原より
	休憩	10分	
5	質疑応答と意見交換	50分	
16:00～16:45 (予備/撤収45分)			
延長戦フリートークで意見交換のつづき(交流タイム予備時間)／事務局は後片付け等(17時施錠厳守)			
16:45頃には懇親会会場へ移動			
17:00～19:00 (約120分) 懇親会			

- 2023年9月に、EPO中部・協働コーディネーター6名が出席して情報交換会を開催した。
- 近況報告のほか、それぞれの地域活動の取組状況と課題を共有したうえで、関係省庁や自治体など行政機関との連携・協力のあり方に焦点をあてた意見・情報交換が行われた。

【開催結果】

- 各コーディネーターの現状や今後の意向(特に環境省事業への応募の意向等)を把握することができた。
- 特に意見交換では、中部地方環境事務所担当官を交えて、行政機関との付き合い方のディスカッション／アドバイスが参考になった、刺激になったとの感想をいただいている。
- また、各コーディネーターがそれぞれの地域活動でどのような中間支援機能を果たしているか把握することができた。



参考) 第6期における協働コーディネーターとの主な連携展開

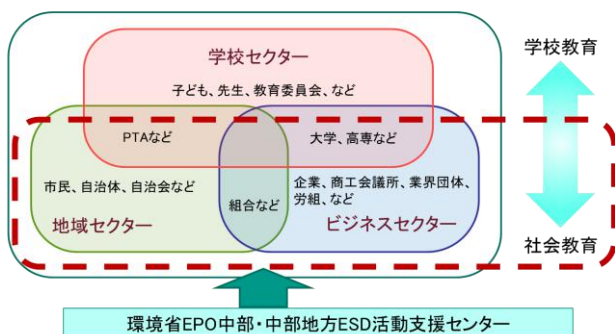
連携した協働コーディネーター	年度	連携業務の内容
■ 山室秀俊氏(長野県NPOセンター事務局長)	2021 2022 2023	長野県長野市等で地域循環共生圏づくりの普及啓発事業
■ 中嶋阿児氏(NPO法人 WACおばま理事長)	2021	- 福井県小浜市におけるSDGs・地域循環共生圏の推進活動 - 小浜市の地域活動を題材に、ソーシャルビジネスの勉強会
■ 三田村佳政氏(合同会社ローカルSDGsクリエイション社長)	2021	福井県越前市で地域循環共生圏フォーラム
	2022 2023	- PF事業に採択 - 福井県丹南エリアで地域ビジネス情報交換会(2022年度)
■ 堺勇人氏(環境市民プラットフォームとやま)	2021 2022 2023	- SDGs社会教育(社会ESD)研究会業務に参画 - 同業務の実践活動で六渡寺海岸(富山県射水市)の漂着ゴミ拾い体験イベントを実施(2021年度) - SDGs学生サミットでファシリテーター
■ 山田勇氏(NPOわおん)	2022	環境NPOネットワークとの意見交換
■ 寺田卓二氏(一般社団法人ネクストステップ研究会 代表)	2023	地域循環共生圏フォーラムの共催を検討中(2023年11月末現在)
■ コーディネーター全員	2021 2022	EPOの業務や主催イベントに対するニーズ調査ヒアリングへの協力

2. 第6期における主な取組

【方針3-iii】 EPO機能の強化：取り残されがちな中小企業・自治体等への支援

学び合いプロジェクト：社会へのESDの実装を目指した実践と展開

ESDの社会実装を目指す！



2022年度11月
福井県大野市での
実践セミナー
ミステリーワーク
ショップとジグソー法

①24枚のカードを使った
ミステリーワークショップ

②ジグソー法による
課題解決ワークショップ



福井県版気候変動ミステリー
ワークショップでは...

24枚のカードを使って、福井県や全国、世界で起きている現象の謎解きをします。様々な要因が複雑に絡まり合っていることを理解し、システム思考の力を養います。

課題解決ワークショップでは...

福井県や大野市のデータをもとに、ジグソー法を用いて持続可能な県や市の未来像や実現のための方法を考えます。ジグソーパズルのように、様々な分野を組み合わせた未来像を描き、実行のための方法を考えながら、未来予測、批判的思考、統合的問題解決の力を養います。



2022年度8月開催オンラインセミナー
講師：江守 正多先生、木原 浩貴先生



- 2021・2022・2023年度に、地域づくりの担い手や次世代育成のための気候危機対策と地域づくり・人づくりをテーマにしたオンラインセミナー（各年度2回）と、実践セミナー／ワークショップ（各年度1回）を開催。
- 2021年度は、11月に富山県射水市六渡寺海岸で実践セミナーを開催し、海岸ごみからSDGsを考えるワークショップを実施した。
- 2022年度は、11月に福井県大野市で実践セミナーを開催し、気候危機をテーマにしたミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップを実施した。
- 2022年度は、11月に愛知県常滑市鬼崎漁港で「食」から気候変動を考えるミステリーワークショップを実施した。

【実施結果】

- 効果的なワークショップのため、専門家による講演や地元活動者の話題提供に加え、体験や視察など工夫を凝らした参加者へのインプットを実施した。
- 構造的に可視化するワークショップで参加者のシステム思考が養われた。

SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の作成



- 3カ年度に渡り展開したESD学び合いプロジェクトの成果として有識者のWGの検討をもとに冊子「ESDワークブック」を2023年度に作成している。
- ミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップをはじめ、実践セミナーで実施したワーキングの方法などを掲載している。

【実施結果】

- 有識者で構成するWGを年3回開催。2023年度のWGでは企業、行政、市民団体でのESD普及のハードルを下げるためにペルソナワークショップ検討を実施。
- 外部の学識者の提言を受け、地域づくり＝人づくりの観点から、「地域」を意識したESD展開を構成。
- 持続可能な社会のための人づくりのビジョンを示すためユネスコのキーコンピテンシーの概念を導入。
- ESD実践を具体的に手助けするため「人」、「こと」、「もの」、「金」の観点を導入した企画用ワークシートを掲載。
- 2023年12月9日全国フォーラムのパネル展示で見本を展示、好評を得る。

2. 第6期における主な取組

その他の業務

森里川海生態系ネットワーク形成会合：OECDフォーラムの開催

生物多様性主流化フォーラム in 中部

OECM を通じた 企業の生物多様性保全活動

2023 年 1 月 25 日 (水) 13:30 ~ 16:30

オンライン開催

**参加
無料**

2022 年 12 月に開催された生物多様性条約の締約国会議において、
「2030 年までに陸と海の 30% 以上を保全する」という世界目標 (30 by 30 目標) が
決定されました。

この 30 by 30 目標の達成に向けた重要な手段が OECM (オーイーシーエム) です。
OECM とは、法律などにより保護地域に指定されていない場所で、企業や NGO 等の取組により
生物多様性保全に貢献している場所 (企業緑地、里地里山、都市緑地など) を指します。
環境省では、OECM の推進に向けて、企業等の取組により生物多様性の保全が図られている場所を
認定する仕組み (自然共生サイト (仮称)) の構築を進めています。

このフォーラムでは、今後、中部地域で OECM を増やしていく方策を検討するため、
OECM に取り組む意義やメリットなどについて深堀します。

プログラムは裏面をご覧ください

申込方法

ZOOM 参加は定員に達しましたので、YouTube ライブ配信による視聴参加を募集しています。

- 参加申込フォーム
- メールで申込の場合

<https://forms.gle/W5W5YCL7J7M2uB46>
 開催日の前日、申込登録したメールへ YouTube の視聴 URL をお送りします。
 EPO 中部ウェブサイト (<https://www.epo-chubu.jp>) から申込できます。

宛先: info@epo-chubu.jp
 ①氏名 (ふりがな)、②連絡先 (メールアドレスか電話番号)、③ご所属先を記載のうえ、
 件名 「0125 フォーラム」で 1 月 20 日までに送信願います。



30 by 30 及び OECM にご関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加いただけます。
特に、生物多様性保全の取組を展開している、またはご関心のある企業、活動団体、自治体のみなさまの
ご参加をお待ちしております。

参考

環境省ウェブサイト「生物多様性のための 30by30 アライアンス」
<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance>



主 催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)

- 2023年1月にOECMの普及啓発を目的にしたフォーラムを開催。
- 共生サイトに試行採択された事業者3者のサイト紹介、環境関連事業への関心が高い企業団体EPOC等による取組紹介などを実施。

【実施結果】

- 参加者数等は268（zoom62件、YouTubeライブ配信視聴（ユニーク数）206件）となり、COP15閉幕の（報道がされていた）タイミングで本格的な参加募集広報を展開できたため、定員を大幅に超過する参加を得た。
- 全国から多数の企業・自治体が聴講参加し、OECM、環境省の自然共生サイトに対する理解を深めたとのアンケート結果を得られた。



SDGs学生サミット ユースと自治体によるSDGsオンラインフォーラム「中部地方SDGs学生サミット」

中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム



SDGs学生サミット

2023年2月4日(土) 開催
13:00~17:00・オンライン

プログラム 予定

第1部 団体発表
若者にとってのSDGs
～学習活動等の取組紹介や展望～
中部地方に所在する
大学等の学生・ユースグループが
SDGsの取組・活動について発表を行います。

第2部 話題提供
地域のSDGsの取組
～自治体のSDGsの取組について～
中部地方のSDGs未来都市に選定されている
基礎自治体の担当者などから
施策や取組をご紹介します。

第3部 ディスカッション
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること！
進行 原 理史（中部地方ESD活動支援センター）
総括 伊藤 恭彦氏（名古屋市立大学副学長、ESD/EPO運営委員会 座長）

一般参加 申込不要

- YouTubeライブ配信をご視聴いただけます。
- 視聴URLはWebページに掲載いたします。



Webページ▶

ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルアースルーム▶

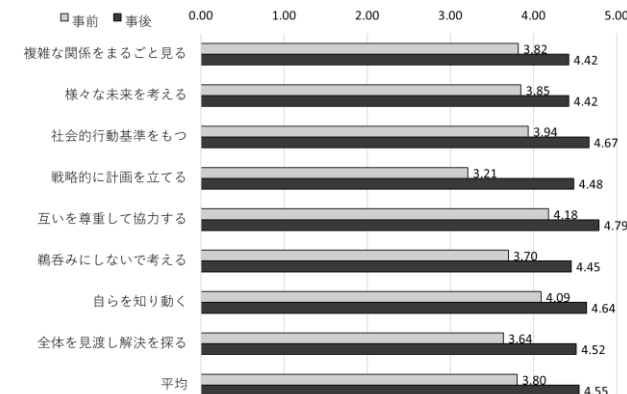
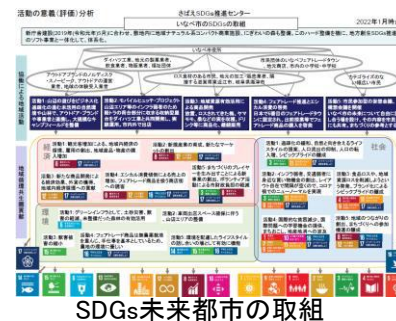


主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）
協力 ▶ 中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

- 2020年度から毎年2月に開催。
- コア参加として各回4～7団体の学生グループ、3つのSDGs未来都市基礎自治体が取組発表及びディスカッション。
- YouTubeによる一般視聴者への同時配信。

【実施結果】

- SDGs未来都市基礎自治体の取組を「活動見える化プログラム」の分析結果、学生の取組内容のSDGsワークシートの可視化結果を共有。
- 事前事後で参加学生にアンケートを実施。ユネスコ提唱のキーコンピテンシーにかかわる取組態度の強化を確認。



アンケート結果：各項目とも事後の得点が増加

ユネスコジオパークをフィールドとしたESDダイアログ



- 中部地方のユネスコジオパークに焦点をあてつつ、国立公園などの自然資産を活用したESDの在り方をディスカッションするダイアログを開催。
- 2021年度より順次、立山黒部ジオパーク、恐竜渓谷勝山ふくいジオパーク、南アルプス中央構造線エリアジオパークで開催。

【実施結果】

- 地元の教育関係者、ジオガイド、ESD関係者に加え、学校で取り組む子どもも参加し、修士記者の監修のもと取組紹介とディスカッションを実施。
- 各回、中部地方のジオパーク担当者を中心に関係者の交流が行われた。
- 二日目にはジオサイトや取組を現地で見学するエクスカーションが行われた。



中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

オンライン参加も可能です

中部地方ESD推進ネットワークフォーラム

ESD推進ネットワーク活動の拡充を図るため
中部地方の地域ESD拠点団体の活動交流と情報共有のための意見交換を行います

日時 2022年12月5日(月) 13:00~15:30
場所 ウィンクあいち 906会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)
対象 中部地方の地域ESD拠点団体(19団体/2022年10月現在)

プログラム(予定)

- 挨拶 環境省中部地方環境事務所
- 参加者自己紹介
- 基調講演
「ESDの今日的意義
〜これからの社会を担う人づくり」
大庭聖公 愛知教育大学教授
- 現状報告
「環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援
センターの取組」
原 理史 中部地方ESD活動支援センター責任者
- 参加者意見交換
「地域ESDの現状と課題」
コーディネーター
古澤礼太 中部ESD拠点協議会(RCE Chubu)事務局長
中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授

申込方法 締切: 10月31日(月)

- 裏面の参加票を送付いただくか、こちらの参加申込フォームから入力をお願いいたします。
- 現地参加者には交通費(各拠点1名様分)を支給いたします。
- zoomの参加URLは開催日前日までにお送りします。

問合せ

中部地方ESD活動支援センター
(環境省 EPO中部)
TEL: 052-218-9073
FAX: 052-218-8606
E-mail: office@chubuesdcenter.jp



中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development



地域と学校をつなぐESD

2023年9月21日(木) 13:00~15:50

オンライン開催・参加無料

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

地域づくりは人づくりです。持続可能な地域づくりに、学校との連携は欠かせません。
 学校と社会の連携による人づくりの場は、子どもたちだけでなく、大人たちにとっても大きな学びの場です。学びの場に関係する様々な主体が持続可能性教育ESDを推進して活動することで、より美しく元氣な地域づくりにつながります。

環境省と文部科学省が共同で取り組んでいるESD推進ネットワークでは、各地方のESD活動支援センター主催の交流連携事業を行っています。中部地方ESD活動支援センターでは、構成員の地域ESD拠点とともに、ESDネットワークの交流を深めるために「中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム」を開催します。皆様のご参加をお待ちします。

プログラム

挨拶・開会説明
基調講演 「地域づくりと学校教育・今求められる地域のESD」
金沢大学大学院教育実践研究科准教授 加藤 隆弘 氏
 基調提供 「学校と地元が好きだからと地域と協働した学校教育づくり」
愛知県東海立川小学校校長 鬼頭 学 氏
 愛知県東海立川小学校教諭 森 倫子 氏
 「ESD・SDGsを学び合うコミュニティづくり」
北陸ESD推進コンソーシアム コーディネーター 池端 弘久 氏

第2部
地域ESD拠点登録団体による事例報告 〜 地元で！ 大人と子どものESD
 報告 1 「子どもたちのESDからSDGsまちづくり」 ならぬSDGsスイッチ 入口 麗 氏
 報告 2 「地域の自然資源を活かした学校のESD」 勝山市(勝山市教育委員会) 廣田 大吾 氏
 報告 3 「循環型社会を担う企業から子どもたちへ」 加山興業株式会社 井上 智博 氏
 交流ディスカッション コーディネーター: 中部大学国際ESD・SDGセンター准教授、中部ESD拠点協議会 古澤 礼太 氏

申込方法
QRコードから申し込みサイトにアクセスしてください。
 参加登録すると、@zoom.us または @chubuesdcenter.jp のアドレスから登録されたメールアドレス宛に招待メールが自動送信されます。

中部ESDセンター 事務局



- 2022年度より地域ESD拠点とともに、基調講演とディスカッションをオンライン公開するESDネットワークの交流を深めるフォーラムを開催。
- 様々なセクターと学校教育現場をつなぐ場として設営した。

【実施結果】

- 中部地方で登録している地域ESD拠点10程度が参加し、交流を深めた。
- 2022年度は愛知教育大学教育学部の大鹿先生、2023年度は金沢大学教育実践研究科の加藤先生の基調講演をいただき、学校と社会との連携についての議論を深めた。

その他) 第6期EPO中部／中部ESD活動支援センターのリーフレット

- 2021年11月に完成・発行。
- 催事参加者や招聘された地域行事等で、約300部を毎年度配布している。



EPO中部／中部地方ESD活動支援センターの第6期(2021年度～2023年度)の目標

アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs活用が進みつつある中部エリアにおいて――

新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGsの実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

方針 地域循環共生圏づくりの推進の支援にあたり、細やかな人の汎用化を行います。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

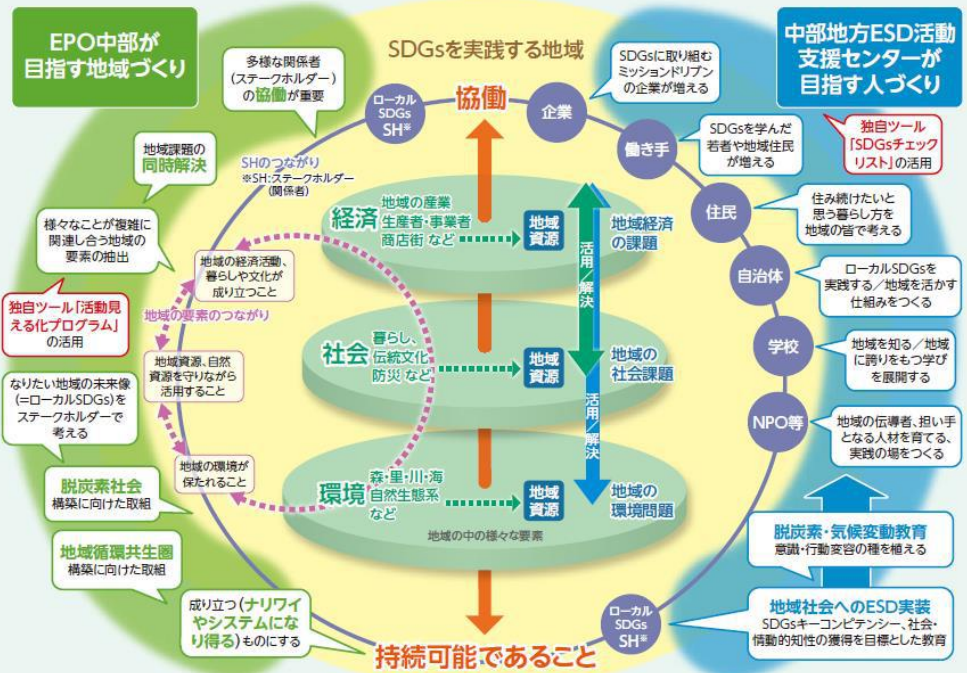
地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

地域課題の解決に向け、EPO中部独自ツールを展開します。地域循環共生圏とSDGsの実装・実践に取り組みます。

持続可能な地域づくりにEPO中部／中部地方ESD活動支援センターをご活用ください。



こんな時はEPOへ

SDGs、地域循環共生圏、協働、ESD、環境教育、人づくり、人材育成などの相談・照会、情報収集、広報協力を行っています。お気軽にご連絡、ご来館ください。

◆相談したい、紹介してほしい

環境、ESD(教育)、SDGs(ローカルSDGs)、地域循環共生圏づくりなどに関わる相談・照会を受け付けています。

◆情報が知りたい、収集したい

施設内の配架コーナーに多種多様な資料があります。自由にお持ち帰りください。

◆ミーティング・スペースが利用できます

施設内のフリースペースをミーティングや資料閲覧にご利用いただけます。(※ご利用の重複を避けるため、事前に連絡願います。)

◆広報したい、PRしてほしい

ウェブサイトやメルマガなどで、イベントや募集告知、助成金情報などの情報発信を行っています。皆さんが広報したい情報やチラシなども随時、受け付けています。

第6期にも新たな独自ツールを構築・公開します。

3. 第6期業務の総括

第6期の「目標」と「方針」(p 4 参照)の達成可否等についての総括

●「目標」について

- 第6期に主催した行事で、オンライン活用が定着すると共に、企画目的・意図に応じたオンラインとリアルの使い分けを行うなどして、協働・ESD・SDGs実装・実践の支援に向けた新フェーズ対応の取組を展開できた。
- 誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築については、さらなる強化・向上の余地もあるが、当初目標で想定していた取組・企画についてはすべて遂行し、達成できたものとする。

●「方針」について

- 「方針」全般について、仕様書項目が一部変更になった業務、及び2023年度業務のこれから開催する行事を除くと、当初想定・企画していた業務は全て実施し、企画目的を達成できたと考えている。
- 「方針1-①・②」については、地域への支援の【個別対応】として、各年度で特定地域・テーマへの支援を目的とした催事を開催した。また、【汎用化】を目的とした業務として、地域支援に用いたEPO中部独自プログラムをウェブサイトに公開すると共に、ほかの地域・テーマでの支援にも応用・活用するなど、汎用化も実践できたものとする。
- 「方針2」については、第5期から構築・作成している独自ツールを第6期でも活用しつつ、新たな独自ツールとして、地域SDGs評価に関わる『SDGs指標物語』を構築することができた。
- 「方針3-i・ii」については、PF事業支援や主催催事等を通して、新たな関係構築、ネットワークづくりを遂行できたが、関係性の更なる強化・向上については今後も課題になるものとする。
- また、「方針3-iii」については、「学び合いプロジェクト」で取り残されがちな中小事業者や自治体を対象にしたほか、「ESDワークブック」を新たに作成・公開し、当初想定していた以上に同セグメントを対象にした支援を実践できたものと考えている。

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果 ※開催時間はすべて達成	成果、自己評価 等
協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進	【2021年度】 地域循環共生圏づくりの特定テーマ(再エネ、脱炭素、資金調達等／地域側と協議して決定)についての勉強会 開催1回・3時間・参加者30名程度	・テーマ: 里山里海保全活動の収益化で、フォーラムを開催。地元活動者23人が参加した。	・地域的事件のため、参加者は少数だった。 ・フォーラム参加者をSHにして、次年度PF事業に応募し、採択された。 ・数値目標は達成不可だったが、企画目的は達成できた。
	【2022年度】 地域循環共生圏づくりのEPO中部による支援プログラムの実践 全3回講座・各1～2時間・参加者30名程度	・EPO企画WSプログラムを実施するフォーラムを長野県諏訪市で開催。58人が参加。	・WSプログラム「なりたい地域の未来像づくり」が参加者に好評で、WEB公開後も問合せがあった。 ・目標を2倍近く上回る参加者数があり、参加者数、支援プログラム実践という当初の目標を達成した。
	【2023年度】 中部エリアの自治体職員及び協働コーディネーター等を対象にして環境施策に関わる実践的勉強会等の実施 東海エリア等で1回開催・3時間・参加者50名程度	・ローカルSDGsの指標、達成度をテーマにしたセミナーを名古屋市内で開催。19人が参加。 ※ 三重県内で2月にフォーラム開催予定あり。	・参加者アンケートの結果は非常に好評だったが、愛知県以外からの参加者が少なく、目標の参加者数は達成できなかった。
遠隔地（北陸・信越）と連携した実践的取組の実施	【2021年度】 「学び」と「協働」による地域循環共生圏づくり(各地域への協働実践支援) 地域循環共生圏づくり実践に向けた普及啓発(地域のやる気の掘り起し) 北陸2回、信州2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・長野県長野市でローカルSDGsを学ぶ連続講座を開催(初回・最終回をEPO主催で実施)。計79人が参加。 ・福井県小浜市で地域循環共生圏をテーマにしたワークショップを全2回実施。計51人が参加。	・行政、市民団体、企業、自治組織など多数の多様な主体が参加。地域課題WSの学びや気づきが今後の地域づくりで生かせるとの感想をいただいた。 ・地域循環共生圏づくりの実践を目指したが、地域側にあった消極姿勢も浮き彫りとなった。 ・目標とする参加者数に届かなかった催事もあるが、計4回の参加者数の合計(130人)は目標を達成した。
	【2022年度】 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援プログラム、地域SDGs評価メニュー／プログラム等の実践活用 2エリアで各2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・仕様書上、1エリアのみでの実施となった。 ・前年度に続き、長野市等でテーマを絞ったローカルSDGs勉強会を全2回開催。計50人が参加。	・関連する地域活動で「見える化P」を作成し、勉強会の中で概説活用。チャートはWEBでも公開。参加者に『見える化』の重要性を再認識いただいた。 ・企画目標は達成できたが、参加者数は目標を達成できなかった。
	【2023年度】 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援プログラム、地域SDGs評価メニュー／プログラム等の実践活用 2エリアで各2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・仕様書上、1エリアのみでの実施となった。 ※ 協働コーディネーターのご事情等あり、1月、2月に計2回開催予定。	ー

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果	成果、自己評価 等
ESD活動支援	①「(仮称)中部版ESDワークブック～学生・社会人のための地域社会SDGs実践」作成 1年目プロトタイプ作成、2年目完成公開、3年目活用実践	- 年3回の有識者の研究会に基づき2022年度にプロトタイプ版を作成公開済み。 3年目において活用実践を目的とした12ページのパンフレットタイプを作成。	- 幅広くESDが実践できるようハードルを下げる工夫を凝らしたワークブックパンフレット原稿を作成し、全国ESDフォーラムでの紹介でも高い評価を受けた。 2023年12月現在、公開に至っていないが、2024年2月に依頼された愛知県市町村環境教育職員研修で活用予定である。 - 以上から当初の目標を達成した。
	②相談対応及び支援／情報の受発信／Webサイト運用 第5期を上回る実績	- 相談対応件数:2021年度40件、2022年度52件(EPO対応を含む) - Webサイト更新:2021年度206件、2022年度216件／ウェブアクセス数:2021年度13,575件、2022年度10,738件	- いずれの指標も第5期と同等程度、もしくは上回る件数となった。 - 講師やファシリなど職員派遣による支援も増え、大人数相手の講演(2022年度・2023年度実績例、高校授業、学年全クラス230人)など、実質的支援/発信量は増加傾向となっている。 - 以上から目標は達成されたと考えられる。
	③ESD／SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催(各年度1回) コア参加20名、一般参加30名程度	2021年度(⑤と同時開催) 2022年度参加者26名 2023年度参加者38名	2021年は⑤との同時開催であった。全体では110名を超える参加となった。2022、2023年は地域ESD拠点に対象を絞り30名程度の参加を得て濃密な議論を行った。 - 以上から目標は達成した。
	④自然資産を活かした地域づくりESDダイアログの開催(各年度1回) コア参加10名、一般参加30名程度	2021年度参加者1日目45名、2日目15名 2022年度参加者1日目53名、2日目16名 2023年度参加者1日目41名、2日目19名	- ジオパークダイアログでの参加者に加え、各回2日目のエクスカージョンでも自然資産を活用したESDディスカッションと交流が行われた。 - 参加者数は目標を上回り、有意義な内容を含め目標は達成された。
	⑤中小企業・自治体のESD/SDGs取組の促進、ユースと社会のESD/SDGs連携 交流者10名程度、実践者30名程度	2021年度参加者コア参加52名、視聴59名 2022年度参加者コア参加76名、視聴40名 2023年度(2024年2月実施予定)	- 学生のSDGs取組と自治体のSDGs取組の交流が実質的に進む会合となった。また各回100名以上が参加するなど広範囲な効果も認められた。イベントの事前事後のアンケートでは、学生のキーコンピテンシーの向上が認められた。 - 以上から目標を大きく上回る成果となった
	⑥包括的専門家ヒヤリング(各年度1回)、現場ヒヤリング(各年度適宜) 専門家(各年度1回)、現場ヒヤリング2名程度	2021年度:専門家1名、教職員等2名 2022年度:専門家1名、教職員2名 2023年度:専門家1名、教職員2名、事業者2名	- 有識者から俯瞰的なESDの諸課題について見識のある示唆が得られた。 - 教職員からは学校現場の具体的な課題が、また事業者からは社会におけるSDGs達成のためのESDの役割や課題に関わる多くの示唆が得られた。 - 以上から有意義な知見を含め目標は達成された。

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果 ※開催時間はすべて達成	成果、自己評価 等
森里川海推進ネットワーク形成会合の開催	【2021年度】 ユネスコエコパーク白山BR及び白山国立公園(場合によっては勝山ジオパーク、白山手取川ジオパーク等含む)で、「白山ブランド」向上をテーマに開催 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	- 白山ジオパーク&BRで計2回の情報交換会を開催し、計52人が参加。 - 地域側との協議により、「地域の未来像づくり」「地域の魅力向上の取組アイデア」を話し合うWSを実施。	- 白山ジオ&BRでこのように関係者が集う会合は初めてであり、白山ジオ&BRのあり方を深掘りし、各関係者の認識を共有する良い機会になったとの感想をいただいた。 - 企画目標は達成できたが、参加者数はわずかに目標を下回った。
	【2022年度】 南アルプスBR、志賀高原BRで、「持続可能な地域づくりのためのゴール(SDGs)と観光(サステナブルツーリズム)」をテーマに開催 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	2022年度の本業務では、全EPOがOECMをテーマに会合等を開催することになった。 - 中部7県担当で情報交換を行うクロージング会合1回、オンラインフォーラム1回を開催し、フォーラムでは企業を中心に268人が参加。	- 定員を大幅に超過した参加希望があり、急遽YouTube配信を増設するなど、参加者数は目標を大きく上回る結果となった。 - 参加企業等からは、OECM等への理解、自然共生サイトの認知が得られ、翌年度は愛知を中心に中部エリアから多数の企業が自然共生サイトへの認定申請があった。
	【2023年度】 ジオパーク、ユネスコエコパーク等を活用したESD業務(ESDダイアログ開催)との連携・連動による開催など 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	継続して本業務において全EPOがOECMをテーマに会合等を開催することになった。 ※ 信州の森林・里山フォーラム、EPOC協力による企業の生物多様性勉強会を12月、1月に開催予定。	2023年11月現在、未開催であるが、登壇者や協力企業・団体と、今後の地域循環共生圏づくり／ネイチャーポジティブ支援に活かせるつながり構築につながっている。
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	【2021-2022年度】 地域のパートナーシップ構築支援: 具体のプラットフォーム構築事業の採択団体への支援となる会合またはイベントの開催(2カ年度) 各年度2エリアで各1回開催、各回2時間、30名程度	2カ年度で8エリア/回の会合・イベントを実施し、うち4回をPF事業採択団体への支援を目的に実施(PF郡上、PF七尾、PF丹南、PF尾鷲)。4会合で計180人が参加した。	4会合の合計参加者数は、目標数120名(30名×4回)を大きく上回り、達成できた。 - 会合・イベントにより、各団体関係者である参加者の気付き、新たな関係性構築などがあり、各団体がその後の取組展開で、地域の現状・課題感に即した新たなシナリオを描くことにつながった。
	【2021-2022年度】 特定のテーマでの会合(脱炭素ロードマップ等)(2カ年度) 各年度で会合1回実施、各回2時間、30名程度	2カ年度のうち2022年度に東海、北陸の2エリアで地域脱炭素をテーマにしたセミナーを開催。3セミナーで計205人が参加した。	- 財務省・経産省との共催により、多数の金融機関、企業の参加を得られ、参加者数は目標数60名(30名×2回)を大きく上回る結果を得られた。 - EPO自身も登壇企業等との新しい関係構築につながった。
	【2023年度】 環境×経済に関わる特定テーマで情報共有、マッチング会合を実施 協議と会合各1回実施、各回2時間、30名程度	2023年度からは、全EPOがSH連携促進事業としての会合等を実施することになった。 ※ 鳥羽観光創発会合、北陸脱炭素セミナーなど計4会合・イベントを1月以降に実施予定。	—

参考）実施した主催イベント一覧（及び参加者数）

* 記載イベント名は略称

※参加者・オンライン視聴者の数(2023年11月末時点)						
	協働	参加※	地域循環共生圏	参加※	ESD	参加※
2021年度	・ 越前の地域循環共生圏フォーラム	23	・ PS基盤強化:飯山会合	22	・ 学び合いの場①	65
	・ 地域循環共生圏セミナー in 中部	40	・ PS基盤強化:郡上会合	15	・ 学び合いの場②	38
	・ 小浜市地域循環共生圏ワークショップ①	15	・ PS基盤強化:小浜会合	22	・ SDGs社会教育～実践セミナー	47
	・ 小浜市地域循環共生圏ワークショップ②	36	・ PS基盤強化:ななおフォーラム	26	・ ESDダイアログin立山黒部	45
	・ ローカルSDGsスタートアップフォーラム	49	・ 森里川海:白山ジオ & BR情報交換会①	25	・ SDGs学生サミット (ESD推進ネットワーク地域フォーラム)	115
	・ ローカルSDGs テイクオフセミナー	30	・ 森里川海:白山ジオ & BR情報交換会②	27		
2022年度	・ 地域循環共生圏フォーラムinSUWA	58	・ PS基盤強化:おわせ意見交換会	128	・ 学び合いの場①	60
	・ ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー	17	・ PS基盤強化:丹南会合	11	・ 学び合いの場②	61
	・ 長野市芋井地区「災害に強い地域づくり」	35	・ PS基盤強化:脱炭素セミナー(東海開催)	116	・ 実践セミナー:脱炭素のまち・人づくりWS	51
	・ 信州ローカルSDGs勉強会「学校×地域」	15	・ PS基盤強化:脱炭素セミナー(信州開催)	84	・ ふくい勝山ジオパークESDダイアログ	53
			・ 森里川海:OECMIに関する情報交換会	55	・ ESD推進ネットワーク地域フォーラム	26
			・ 森里川海:生物多様性主流化フォーラム	268	・ SDGs学生サミット	116
2023年度 予定含む	・ ローカルSDGsセミナー	19	・ 自然資本:信州の森林・里山フォーラム	12/16開催	・ 学び合いの場①	35
	・ 地域循環共生圏フォーラムin北勢	2/16開催	・ 自然資本:企業の生物多様性保全勉強会	1/26開催	・ 学び合いの場②	33
	・ 持続可能な地域づくりワールドカフェ	1/13開催	・ SH連携:鳥羽の観光創発ミーティング	1/16開催	・ 実践セミナー:食べ物が変わる?!	43
	・ 長野市芋井地区 ローカルSDGs勉強会(仮)	2/4開催	・ SH連携:北陸脱炭素セミナー	2/7開催	・ 南アルプスジオパークESDダイアログ	41
			・ SH連携:サーキュラーエコノミー会合(仮)	2/下旬開催	・ ESD推進ネットワーク地域フォーラム	38
			・ SH連携:奥三河会合(仮)	2/14開催	・ SDGs学生サミット	2/10開催

参考）相談問合せ件数と対応状況（上表）とウェブサイトアクセス数（下表）

相談問合せ件数と対応状況

区分	ア 照会・相談対応						イ 対話の体制の構築		ア + イ	
	事例件数※ ¹ 行った案件の 件数	①相談に対し 支援対応等 を行った案件の 件数	（左記①含む） 照会・相談 対応等の延 べ件数	②相談・ 照会、資 料配架依 頼等			③メール・電 話による相談 （広報依頼等） 延べ件数※ ²	（ア）会議・セ ミナー等 域活動への 招聘	（イ）その他 域主体との打 合せや意見交 換等	対応件数 総計
				来館件数 延べ件数※ ²	会議利用					
2021年度 4月～3月・12ヵ月間	52		242	94	17	30	148	42	84	368
2022年度 4月～3月・12ヵ月間	40		276	76	43	33	200	62	99	437
2023年度 4月～11月・8ヵ月間	27		172	61	34	27	111	14	80	266
合計	119		690	231	94	90	459	118	263	1,071

※1）事例件数：最初の連絡から対応終了までの（その間の連絡・打合せ等を含めた）案件ごとにカウントした数となっている。

※2）延べ件数：同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

ウェブサイトアクセス数

	URL	第5期			第6期		
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度※
EPO中部Web サイト	http://www. epo-chubu.jp	参考値 279,316 件 別ソフト解析集計	参考値 810,836 件 別ソフト解析集計	参考値 501,670 件 別ソフト解析集計	32,185 件	31,134 件	18,143 件
中部地方ESD活 動支援センター Webサイト	https://chubu .esdcenter.jp	10,612 件	11,521 件	13,132 件	13,575 件	10,948 件	8,383 件

参考値以外はGoogleアナリティスによる解析・集計／2023年度は2023年4月～11月末の集計

● 新しいネットワークの構築とその活用

- ・ 協働コーディネーターに加えて、イベント登壇者、開催協力主体、PF事業採択団体等との継続的な関係性構築が重要であり、新たなネットワークづくりとそれを活用するための方策と体制が必要になっている。

● EPO機能やEPOのあり方を明示する広報の展開

- わかりにくいと言われがちなEPOの機能及び中間支援機能、EPOが誰に何をしているかを第三者へ見える化しておく必要がある。
- 特にこれまで手薄になりがちだったワークショップ、ディスカッション等の実施事例や、相談対応や地域側からの招聘事例の实事例、独自ツールの活用事例等をウェブサイト等で公開・紹介するなど、《EPO中部を明示する広報》が必要とされている。

● EPOとESDセンターの連携強化と3分野＋1への関わり方の提示

- EPO業務・ESD業務ともに年間を通して仕様書業務の遂行のみに注力しがちであり、EPOの地域づくりとESDセンターの人づくりを連携させつつ、今後の環境省の重要施策となるカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー、及び、それらを包括する地域循環共生圏づくりに、どのような支援や関わり方ができるか提示・実践していくことが重要と考える。